

## スペイン語ガイドブック

## ■指示語

## ●指示形容詞の変化は？

指示形容詞には日本語の「この」、「その」、「あの」にあたる近称、中称、遠称の *este*、*ese*、*aquel* があります。それぞれ修飾したり、指示したりする名詞の性・数によって次のように変化します。

	近称		中称		遠称	
	単数	複数	単数	複数	単数	複数
男性	<i>este</i>	<i>esto</i>	<i>ese</i>	<i>esos</i>	<i>aquel</i>	<i>aquellos</i>
女性	<i>esta</i>	<i>estas</i>	<i>esa</i>	<i>esas</i>	<i>aquella</i>	<i>aquellas</i>

## ●指示形容詞の用法は？

文脈や場面にある人や事物を指します。*este* は話し手の回りにあるもの、*ese* は話し手の近くにあるもの、*aquel* は話し手から遠く離れた場所にあるものを指します。

- Este señor viene de México. // この方はメキシコからいらっしゃいました。◇**señor** 人、**venir** 来る
- ¿Ves aquellas montañas? // あの山が見えるかい? ◇**ver** 見る、見える  
**montaña** 山

★場所だけでなく、時や想像上の遠近感を示すこともできます<sup>1</sup>。

<sup>1</sup> ただし人を指すときは本人の前では指示形容詞を使うと失礼になることがあります。ご本人の名前を使うべきでしょう。

- El señor Pérez viene de México. // ペレスさんはメキシコからいらっしゃいました。

- A esa hora el tren va siempre muy apretado. // その時間には電車はいつもとても混む。◇**hora** 時間 **tren** 列 **va** < ir 行く、進む **siempre** いつも **muy** とても **apretado** きつい。(☆副詞的に使われている)
- Aquellos días de mi infancia fueron magníficos. // あの幼い頃の日々はすばらしかった。◇**día** 日 **infancia** 幼児期 **magnífico** すばらしい

## ●指示代名詞の形は？

指示代名詞は男性形と女性形にアクセント記号をつけることがあります。指示代名詞のアクセント記号は義務ではないので、アクセント記号のない形もしばしば見られます。中性形は決してアクセント記号をつけません。

	近称		中称		遠称	
	単数	複数	単数	複数	単数	複数
男性	éste	ésto	ése	ésos	aquél	aquéllos
女性	ésta	ésta	ésa	ésas	aquélla	aquéllas
中性	esto		eso		aquello	

## ●指示代名詞の用法は？

指示代名詞の *éste*, *ése*, *aquél* の位置関係は指示形容詞の場合と同じで、日本語の「これ」、「それ」、「あれ」にあたります。

- Este es mi paraguas, ese el tuyo y aquel el suyo, el de María. // これは私の傘で、それが君のもので、あれが彼女の、マリアのだ。◇**paraguas** 傘

## ●指示代名詞の中性形の用法は？

指示代名詞には中性形もある。「このこと」、「そのこと」、「あのこと」などの意味になります。

- ¿Qué es esto? // これは何ですか?
- ¿Te gusta la televisión? — Eso depende. // 君はテレビが好き?—それは場合によるよ。◇**televisión** テレビ **depende** (~に: de) 依る

## ●指示詞・日本語との比較

日本語では「これ／この」は話し手に近いもの、「それ／その」は聞き手に近いもの、「あれ／あの」は両者から遠いものを指すので、話し手と聞き手との関係になります。

- En España existen varias fiestas famosas como la de San Fermín en Pamplona. - Sí, de esta fiesta habla Hemingway en uno de sus libros. // スペインにはパンプロナ祭のような有名な祭りがいくつかあります。—そう、その祭り<sup>2</sup>についてはヘミングウェイがその著作の中で語っています。◇**España** スペイン **existir** 存在する **varios** いくつかの **fiesta** 祭り **famoso** 有名な **San Fermín** サン・フェルミン(パンプロナの守護神) **Pamplona** パンプロナ(スペインの都市) **hablar** 話す **libro** 本
- ¿Conoces a ese chico, que está en la esquina? // 角(かど)にいる、あの子<sup>3</sup>知っている?◇**conocer** 知っている **chico** 男の子 **esquina** 角

## ●名詞＋指示形容詞

指示形容詞はふつう名詞の前に置かれる。名詞の後にあるとか強意、皮肉、

<sup>2</sup> **fiesta de San Fermín** は聞き手が話題にしたことなので、日本語では「その」が用いられますが、スペイン語では話し手の意識が直接関与するようになって、**esta fiesta** と言っています。もしここで **esa fiesta** とすると話し手の意識から遠くなり間接的になります。

<sup>3</sup> 話し手からも聞き手からも遠い **chico** を指しているの、日本語では「あの」が用いられるが、スペイン語では話し手が間接的に関与しているので **ese** が用いられます。

軽蔑などの主観的な意味を帯びます。これは話し言葉で用いられます。

- El chico ese nunca me saluda. // そいつはけっして僕に挨拶しようとしな  
いんだ。◇chico 男の子 nunca けっして…ない saludar 挨拶する
- ¡Ojalá que la clase esta termine pronto! // こんな授業、早く終わればいいの  
に！◇ojalá…だとよいのに clase 授業 terminar 終わる pronto 早く

### \* 中性の定冠詞 lo が代名詞として使われた場合と eso の違いは何ですか？

「…のこと」を示すには lo de...と eso de ...の形式があります。eso de は話  
し手の間接的な関与を示すので、少し突き放したようなニュアンスとなりま  
す。lo de は単に以前に話されたことを示します。

- No te olvides de lo de mañana. // あしたのことを忘れないで。◇  
olvidarse(…を[de])忘れる mañana 明日
- No me gusta eso de tener que hablar con el profesor. // 先生と話をしなく  
てはならないなんて、そんなこと嫌だ。

## スペイン語の質問

\* ese の存在に驚いたが、これは 3 つ以上のものがあるときに相対的に位置  
を把握するために使うものなのでしょうか。それとも 1 つしかそのものがな  
くても遠からず近からずの位置にある場合には ese を使ったりするのでしょ  
うか？

1 つしかなくても中間の距離にあれば ese になります。しばしば「話し相  
手」に近いものを指しますが、「話し相手」→「話者」→「対象物」のような  
配置でも話者にとっては ese になります。

\* 指示形容詞と指示代名詞はどう違うのですか？具体的にどう使い分けれ  
ば良いのかわかりません。何か例文を御教示願えないでしょうか？

指示形容詞は Este libro es mío.(この本は私のものです)のように名詞の前に  
置かれ、名詞と一緒に名詞句を作ります。指示代名詞は Éste es mi libro.(これ

は私の本です)のようにそれだけで名詞句を作ります。

### \* 中性の *esto, eso, aquello* の複数形はありますか？

ありません。中性は単数形だけです。複数形が必要になると男性の複数形を使います。

- ¿Qué son estos? // これらは何ですか？

## スペイン語の理由

**\* 指示詞の形について。este, ese, aquel という男性単数の形は何か変です。男性複数が、それぞれ estos, esos, aquellos となっているのだから、単数も esto, eso, aquello であったほうが自然だと思います。女性形も esta, esa, aquella, estas, esas, aquellas なのですから。なぜ自然な形にならなかったのですか？**

確かにその通りです。指示詞の変化形は一般の名詞や形容詞と違って男性・単数形だけが特別な形をしています。この問いにはインドヨーロッパ語(IE)→ラテン語(L)→スペイン語(Sp)という言語史をたどらなければなりません。Sp. *este* 「この」の語源は L. *iste* 「その」です。これには IE の指示詞の印である \*t(e) がついています。L. *iste* は母音のない *ist* という形も併用されていましたが、学校で習う古典ラテン語は *iste* (男性), *ista* (女性), *istud* (中性) 「その」です。このときになぜ他の名詞のように、*isto, ista...* とならなかった理由は、おそらく母音のない形が主格形で使われていたからだと思います。後で *ist* に母音がついたのです。この *e* について、ラテン語歴史文法の本 (A. Ernout, 1974, p.93) は、「その起源がはっきりしない、たぶん *iste, ille* は変化語尾のない形で *e* とゼロが交替したのだろう」と述べています。

さて、スペイン語の時代になると、L. (h)ic 「この」 はとても短い語だったので他の語と紛らわしくて嫌われ、次第に L. *iste* > Sp. *este* が 「この」 の意味で使われるようになりました。この時も、やはり男性は *este* であって、*esto* ではありません。Menéndez Pidal は単に、L. 主格形が Sp. でも使われた、と述べていますが、Alvar y Pottier は、やはり対格 *esto* が使われていたが、これの

語尾が脱落し、その後に母音 e が添加して est' > este となったと説明しています<sup>4</sup>。Alvar y Pottier は、ここで復元した母音 e は中性形(esto)と区別するためだった、と述べていますが、私は母音 e が中立的な音であったことも原因として挙げられると思います。なお、このような現象は冠詞でも起こりました(男性単数だけが el という形で変ですね)。

---

<sup>4</sup> 「指示詞の主格形+名詞の対格形」という連続が考えられないからです。なお、Sp の名詞は原則として L の対格形に由来します。